平成２０年６月５日

平成１９年度決算概況について

横浜信用金庫(横浜市中区尾上町２－１６－１　理事長 斎藤 寿臣)は、平成２０年６月２０日(金)の通常総代会において平成１９年度の決算について報告します。

つきましては、「平成１９年度決算資料」を添えてお知らせします。

１．本決算のポイント

（１）５７期連続黒字決算

（２）自己資本比率の上昇

２．業　容

預金（譲渡性預金を含む）平均残高は、前年度比４．１６％増加し１兆３，４２５億円となりました。預金期末残高は、個人預金が好調に推移して前年度比２．６２％増加し１兆３，８３３億円となりました。

貸出金平均残高は、前年度比１．８３％増加し８，３０７億円、期末残高は同３．０４％増加し８，７６２億円となりました。貸出金平均残高は平成１７年度以降３期連続して増加しました。

３．損　益

経常収益は、前年度比１９億８８百万円増の３１８億５５百万円となりました。

資金運用収益が増加したことによります。

経常費用は、前年度比１９億３７百万円増の２５９億５７百万円となりました。資金調達費用と貸倒引当金繰入額（前年度は同戻入益）が増加したことによりますが、一方で国債等債券売却損・償還損が減少したことにより、その他業務費用は減少しています。

この結果、経常利益は、前年度比５１百万円増の５８億９８百万円となりました。また、本業の収益力を表わす業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比７億２４百万円増の６６億８５百万円となりました。前述の国債等の債券売却等損益が△３４百万円と前年度の△１２億４６百万円から改善したことが増益の要因です。

これにより、昭和２６年に信用金庫に組織変更して以来、５７期連続の黒字決算となりました。

＜不良債権処理費用＞

	18 年度	19 年度	増減額
貸出金償却	9 百万円	57 百万円	48 百万円
個別貸倒引当金繰入額	－	535	535
債権売却費用	54	15	△38
合　　計	63	609	545

（参　考）

一般貸倒引当金繰入額	－	21	21

（注）貸倒引当金繰入額は個別貸倒引当金繰入額と一般貸倒引当金繰入額の合計額となります。

４．諸比率

預金貸出金利鞘は、前年度比０．０２ポイント縮小し０．９７％となりました。預金利回が前年度比０．１６ポイント上昇し０．２９％、経費を含めた預金原価率が同０．１１ポイント上昇し１．７１％となった一方で、貸出金利回が同０．０９ポイント上昇の２．６８％にとどまり、預金貸出金利鞘は縮小しました。

総資金利鞘は、前年度比０．０４ポイント縮小し０．２６％となりました。預金利回の上昇により資金調達利回が前年度比０．１６ポイント上昇し０．３３％、資金調達原価率が同０．１１ポイント上昇し１．７４％となった一方で、資金運用利回が同０．０６ポイント上昇の２．０１％にとどまり、総資金利鞘は縮小しました。

自己資本比率は、前年度から適用されている新ＢＩＳ基準（バーゼルⅡ）で前年度比０．２９ポイント上昇の１０．２３％となりました。国内基準（４％）はもとより国際基準（８％）をも上回る高い水準を維持しています。

５．不良債権

不良債権残高は前年度末に比べ微減ですが、貸出金残高等が増加したことにより不良債権比率は信用金庫法基準が前年度の４．８４％から４．６４％に、金融再生法基準が前年度の４．７９％から４．６０％に、６期連続して低下しました。

また、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は９１％を超えています。

６．２０年度計画

２０年度の利益計画は次のとおりです。

①業務純益	６５億１２百万円	（前年度比	△１億７３百万円）
②経常利益	５２億８百万円	（　〃	△６億９０百万円）
③当期純利益	３４億２百万円	（　〃	△６億３０百万円）